帳票出力システム　株式会社 ゼロ

# ビジネス拡大のために基幹システムをオープン化。帳票システム構築支援ソフトウェア「EUR」を使って、メインフレーム並みの高信頼な帳票運用環境を実現

**車両輸送会社の株式会社 ゼロ(以下、ゼロ)は、長年培った輸送ノウハウを活かし、事業範囲の拡大を戦略的に進めるために、2004年から基幹システムのオープン化に取り組み、2007年1月に稼働した。メインフレームで稼働していた基幹システムの中でも、とりわけ重要な帳票出力システムのスムーズなオープン化を支援したのが、日立の帳票システム構築支援ソフトウェア「EUR(イーユーアール)」である。メインフレーム並みの高信頼な帳票出力システムを構築して、開発工数の削減や効率よい出力環境を実現。さらに、プレビュー機能で帳票イメージを確認してペーパーレスで業務が進められるなど、帳票運用・活用の環境も大きく向上した。**

株式会社 ゼロ
情報システム部
部長
荒井 和彦氏

株式会社 ゼロ
情報システム部
課長
豊永 茂樹氏

株式会社 ゼロ
情報システム部
山田　悟氏

## 基幹システムのオープン化で戦略的な情報活用環境を目指す

40余年の歴史の間に高度な輸送ノウハウを蓄積してきたゼロは、この強みを活かしながら、事業範囲を精力的に拡大している。

事業拡大を戦略的に進めるためには、事業戦略が素早く業務システムに反映できるよう、システム面での強化も不可欠である。2004年から、基幹システムのオープンシステム化に取り組んだのもその表れだ。

「ビジネスの変化に素早く対応するべく、鮮度の高い情報を柔軟に活用できる環境を作るためには、メインフレームをオープンシステム化することが不可欠でした」と荒井氏は語る。

さらに2008年1月には、日立の統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」を導入して、サーバの統合化も実現させた。

## 帳票出力システムへの最大要件は「信頼性」

帳票出力システム構築にあたって、重視した要件はメインフレーム並みの信頼性である。

「当社は、売上と実績を日次管理して、輸送の効率化を追求してきましたので、管理帳票を出力するメインフレームの帳票システムは、業務の基幹部分を支えていました。万一、帳票出力システムがダウンすると、会社全体の業務が止まってしまいます。そのため、オープンシステムでは、メインフレーム並みの信頼性が必要であり、その要件に応えられる基盤製品を求めていました」と荒井氏は語る。

管理帳票とひと口に言っても、受注管理、実績管理、売上管理などさまざまな基幹システムのデータを扱うものが30種類以上あり、これらを個別にプログラミングしていると、大きな開発負荷がかかる。そこで同社は、多種類の帳票を共通して処理できる帳票システム基盤を構築して、開発期間の短縮を目指した。

さらに、信頼性重視の視点で複数の製品を比較検討した結果、帳票出力システム構築を支援するソフトウェアとして日立の帳票システム構築支援ソフトウェア「EUR」を選定した。

「管理帳票の共通出力システムを構築する以前に、輸送伝票のフォーム設計にEURを使った経験があり、設計・開発機能が優れていることは知っていました。さらに、長期にわたって日立が手厚いサポートを提供してくれる点も評価しました」と山田氏は選定の理由を語る。

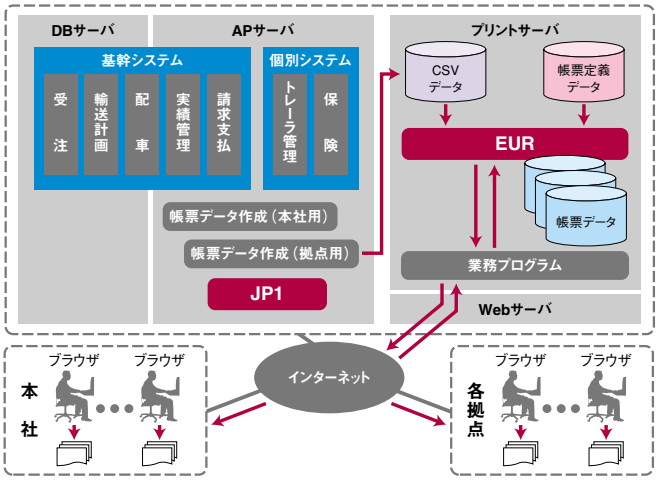
## プレビュー機能の活用でペーパーレス化に拍車

多種の基幹システムから柔軟にデータを

USER PROFILE
**株式会社 ゼロ**
www.zero-group.co.jp
本　　社 神奈川県川崎市幸区堀川町580
ソリッドスクエア西館6階
設　　立 1961年
資 本 金 33億9,000万円
従業員数 1,390名（2007年12月末現在）
車両輸送の国内大手。日産自動車系列の日産陸送株式会社としてスタートしたが、2001年、MBO（経営陣買収）によって独立して、現社名に。新車・中古車・マイカーの輸送、車両整備、中古車オークションの開催、一般貨物輸送を幅広く手がける。

検索や一括出力が便利な一覧表示（上）とページをめくる感覚で確認できるプレビュー機能（下）。

**（株）ゼロの帳票出力システム概要**




引き出し、約30種類の管理帳票を出力する帳票出力システム「Zero Printing System（以下、ZPS）」は、2006年10月に稼働を開始した。利用者は、40 ～50 拠点にいるさまざまな立場のユーザーで、200 名ほどにのぼる。

基幹システムから必要なデータを加工し、CSV形式で抽出した後、EURのプリントサーバへFTP転送するのは、日立の統合システム運用管理「JP1」である。

JP1のジョブ管理機能で送信されたCSVデータを使って、分散環境の帳票出力を支援する「EUR Print Manager」がプリントサーバに帳票データとして蓄積する。これにより、ZPSでは利用者の出力指示に応じて、「プレビュー表示」「プリンタ出力」「CSVデータ提供」のいずれかを行うことができる。

「帳票の一括出力は、従来に比べると格段に速くなりました。また、数十ページもある長大な帳票の場合でも、目的のページだけを指定して出力できるようになったのも便利なところです」と山田氏は説明する。

「利用者がとても喜んでいるのは、プレビュー機能です」と豊永氏は続ける。

帳票名を選択してプレビューボタンをクリックすると、印刷しなくても、実際の帳票イメージを画面で確認できるのだ。複数ページにわたる場合も、マウスをクリックするだけでページをめくる感覚で確認できる。

「紙の出力枚数が減り、ペーパーレスも進んでいます」（豊永氏）。

帳票データを再利用できる環境を容易に構築できるのも、EUR Print Managerの機能のひとつである。

「いままで、帳票データは紙に出力するだけでしたが、帳票データを残せるようになって、大変便利になりました。たとえば、利用者が『CSVデータ提供』を利用して帳票データを蓄積することで、過去の帳票データを再出力することや月次報告に活用することが可能になりました。また、別のデータと組み合わせることで、帳票データの2次加工を行うなど、利用者側で思い立ったときにすぐに作業が行えます」（山田氏）。

## 稼働開始から1年半にわたって高信頼性を実証

ZPS構築によって、帳票システム構築時の最大の要件である信頼性も大きく向上した。

「ZPSを構築した最大の効果は、信頼性が大きく向上したことだと思います。個別プログラミングではなく、信頼性の高いミドルウェアを使ったことで、プログラム・バグのリスクが減り、移行および検証工数を大幅に抑えることができました。ZPSが稼働を開始して1年半ほど経ちますが、EURが原因のトラブルは起きていません」（荒井氏）。

EUR Print Managerは、拠点間で必要な帳票データの受け渡しの通信処理もサポート。メインフレーム並みの高い信頼性を持った帳票出力システム構築を実現したことで、ダウンサイジングのスムーズな実行を側面から支援したのである。しかも、ActiveX連携のWebシステムとなったことで、クライアントマシンでの使い勝手や管理性が向上し、帳票データをより柔軟に活用しやすくなった。

次の課題は、輸送伝票などの出力システムもZPS上で統合し、ZPSを帳票出力の全社共通プラットフォームとしてさらに活用していくことである。帳票機能を共通プラットフォーム化すれば、システム開発の負荷は軽減され、迅速な新規開発と修正が実現できる。

「これからのシステム開発に求められるのは、さらなる短期開発であり、ビジネス要件の変化にすばやく対応することです。しかも、構築効果を明瞭に打ち出していかなければなりません」と荒井氏は語る。

売上拡大に向けてデータを戦略的に活用するためには、日々の業務と密接に関係する帳票システムの利便性の向上は大きな課題である。EURは、柔軟性の高い帳票システム構築を支援していくことでゼロのビジネス拡大に貢献していくだろう。

●ActiveXは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標、または登録商標です。
●その他記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

お問い合わせ
**株式会社 日立製作所 ソフトウェア事業部 販売推進部**
TEL.03-5471-2592 www.hitachi.co.jp/soft/eur/

EUR